就職活動体験記

来年春に卒業する学生の就職活動が３月１日から本格的にスタートする。内定を得た４年次生に、どのような思いで行動したか、キャリア形成支援課の活用方法、就活生へのメッセージなどを聞いた。

反省と改善を積み重ね、優先順位を決めて取り組む

山崎 巧人 さん

ネットワーク情報学部
総合情報サービス企業内定

高校から情報学を学んでいたので、早い段階からＩＴ分野に照準を定めていました。中でも、社会や人々の生活に関係する金融に関する仕事で、自分の強みを生かしたいと思っていました。

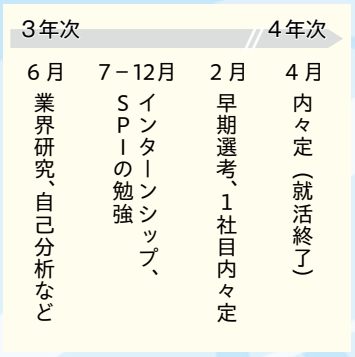
３年次に早期選考を何社か経験しましたが、内定がなかなかいただけず、不安と焦りを感じる時期がありました。そんな時は、自分に何が足りないのかを見直し、反省と改善を重ねてきました。特にエントリーシートに関しては、キャリア形成支援課で何度も添削をお願いし、厳しいながらも的確で温かい指導を受けることで、自信をつけてきました。

また、ネット上の意見に惑わされそうになることもありましたが、友人との情報共有や励まし合いが精神的な支えとなりました。

これらの経験を通じて、私の就活は「粘り強さ」と「周囲からの支え」が内定獲得につながったと実感しています。

就職活動では多くの課題をこなさなければなりませんが、得意・不得意を把握し、優先順位をつけることで効率よく進めることができると思います。

最後にどんな社会人になるか、私自身まだ漠然としていますが、社会をＩＴで豊かにしていく最前線に立ちたいと考えています。



留学中も情報収集。やりたいことをあきらめないで

菊池 来美 さん

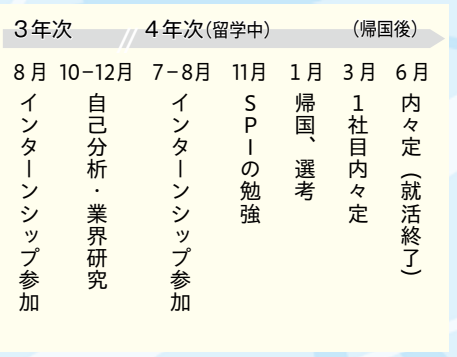
国際コミュニケーション学部
損害保険会社内定

2023年３月から翌年１月まで、長期交換留学プログラムで中国・上海大学に留学しました。留学中でもできることはやろうと決め、就職関連の情報を集め、オンラインでインターンシップに参加しました。

夏期インターン後の早期選考では何も答えられなくて撃沈。自分の甘さを痛感しました。そんな時に大学の国際交流事務課を通じてキャリア形成支援課の担当者を紹介してもらいました。相談に乗ってもらったり、何度も模擬面接を受けたりすることで、自分の考えをまとめることができました。

帰国後、本格的に就活に取り組むと同時に、４月からは国際交流会館のスタッフとして住み込みで留学生サポートにあたっています。こうしたさまざまな経験によって、やりたいことにチャレンジしようとする姿勢を養うことができ、満足いく結果を残すことができました。

卒業が１年延びたことによる就活でのデメリットは感じていません。むしろ留学の経験などを説明し、アピールできたことで、より多くの企業の方々に興味を持ってもらえました。これから就活する皆さんも、やりたいことや学びたいことをあきらめないでほしいと思います。



問題解決型チャレンジプログラム

20チームが活動成果発表

キャリアデザインセンターが主催する「問題解決型チャレンジプログラム」の成果発表会が12月7日、神田キャンパスで開かれた。

社会や企業・団体などが抱える問題に学生がチームで取り組む、本学独自の長期就業体験プログラム。原因の分析から解決策の立案・実行までを一気通貫で行う点が大きな特長だ。今年度は、20のテーマに1～4年次生約120人が参加。学部や学年の垣根を超えて協力しながら、事業企画やマーケティングなどに挑戦した。

「東京リスマチック」チームは、印刷事業などを手がける同社のオリジナルキャラクターの認知度向上を目指して、グッズ制作とイベント開催を手がけた。3人での活動を振り返り、「役割分担をせず、みんなで同じ課題に向き合うことでアイデアの共有がスムーズになった。少人数ならではの強みを生かして活動できた」と報告した。

制作したグッズを手に発表を行う「東京リスマチック」チーム

各チームがさまざまな活動を行った。写真は和菓子「森八東京店」チームが実施した和菓子づくりワークショップ＝2024年11月９日

就職だより

就職活動本番に向けての準備はいかがでしょうか。悩みや課題は人それぞれです。キャリア形成支援課の個別相談を活用して、悩みや課題をクリアしていきましょう。これから会社説明会や選考活動が活発化します。スケジュール管理はもちろん、体調管理にも十分注意して就職活動を進めてください。

2月17日（月）、20日（木）、21日（金）に自治体や官公庁等の35機関が集結する「公務員・独立行政法人等業務説明会」（学年不問）をオンラインで開催します。各機関の採用担当者が業務内容や機関の魅力、仕事のやりがいなどの情報をお話しします。公務員や独立行政法人の業務理解を効果的に深めることができますので、積極的に参加してください。

文・川上ゼミ　『SHOW』19号発行

完成した『SHOW』19号を手にする川上ゼミ生

文学部日本文学文化学科の川上隆志ゼミが年1回発行している雑誌『SHOW』第19号が完成した。

「トキメク選択を」をテーマに「大人ってなんだろう」など三つを特集。19号にちなんで「大人になりきれない19歳」の悩みや不安定感をさまざまな視点から見つめた。編集長を務めた湊真奈美さん（3年次）は、「『SHOW』を読んだ方々が、世の中のしがらみに左右されることなく自分らしい選択をし、自ら行動できるよう背中を押せるような記事にしたいと思い制作した」と話す。

同誌は元編集者である川上教授の指導のもと、企画から制作まで、全ての工程をゼミ生が手がける。今年度は2、3年次生25人のメンバーが、それぞれテーマを決めて取材・撮影・原稿執筆・編集作業を行い、企画20本以上、全112㌻の総合雑誌が誕生した。

学内配布に加えて、希望者には郵送（送料のみ負担）している。申し込みは、kawatakazemi@gmail.comまで。

経済学部「学外特別研修」研修先での経験を報告

経済学部の専門科目「学外特別研修」の発表会が12月7日、生田キャンパスで開かれた。同科目は、外部講師を招いての座学の後、夏期休暇中に企業や行政機関、非営利組織で就業体験を行う。「社会人としての実習体験」を通じて、社会を見る目や能動的・積極的に取り組む姿勢などを身につけることを目的にしている。2、3年次生10人の受講生が参加し、研修先での経験や成果を報告した。

発表会では、教員や研修先担当者を前に堂々と報告を行い、各受講生の研修の充実ぶりと成長を感じさせる内容となった。

就業体験の成果を発表する学生